やありません。だから一緒に私家へ來てはいけません。

ホッチキス。（頑固に）いや行きますよ。

ヂョーヂ夫人。いけません。

ホッチキス。行きますよ。考へ直して下さい。貴女だつて自分の仲間達のことはようく知つてるでせう、小商人仲間のことですね。あの連中の醜聞や僞善、嫉妬や喧嘩、何百と云ふ表沙汰とならない離婚事件や、何十と云ふ表沙汰になつた離婚事件、皆分つてるでせう。

ヂョーヂ夫人。妾達だつて天の使ぢやありませんからね。怪しいことを一つや二つ知らないでもないけど、大概の者は氣がきかないから惡いことなんか出來ませんよ。

ホッチキス。すると斯う云ふことに氣がつくでせう。殺人者も斷頭臺上の教訓めいた文句から判斷すると、皆熱心なクリスチャンになる樣に、男でも女でも道樂者つて奴は皆家庭味たつぷりに見せかけ、蔭では破るか表向きには習慣尊重を高唱する連中のことだつてことかね。

ヂョーヂ夫人。でも、お前さん、あの連中に本音を吐せる積りぢやないでせう？

ホッチキス。彼の人達は感情の勝つた人間で名譽を重んずる人間ではない。所が私は感情的な人

間で無いが名譽を重んずる人間だ。一旦貴女の所の閾を跨いで御主人と食事を共にしたからにはどうするものか自分にはよく分つてゐる。私は結婚契約するものを輕蔑はするが、其の義理を固く守る點では結婚契約を信仰したり、芝居に行つて結婚をお笑ひ草にするのを何よりの樂みとしたりする人達の遙に及ぶ所で無いと思ふ。ソームズ君、君は共產主義者だね。

ソームズ。私はクリスチャンです。だから共產主義者たらざる得ないんです。

ホッチキス。ぢや、教會がヘンリー八世の爲めに、澤山の所有地を盜まれたと云ふことを信ずるかね。

ソームズ。信ずるばかりで無く、法律家として其のことは承知してゐます。

ホッチキス。ぢや、其の盜んだ土地の所有主から蕪一本盜む氣があるかね。

ソームズ。（質問を巧みに受流して。）其の人達に其の土地を所有する權利がありません。

ホッチキス。そんなことを聞いてるのでは無い。其の人達の所有權の無い畑から蕪一本盜む氣があるかね。

ソームズ。私は蕪は嫌です。

ホッキス。君は苟も辯護士だ。正當に返事したまへ。

ソームズ。私は多分そんなことはしないでせう。蕪を盗まないのは悪いかも知れませんが、盗むことの嫌さを辯護は出來ません。併し私は其んなことはしないと思ひます。しないと分つてます。

ホッチキス。私だつて石炭屋の女房を盗みはしないよ。私も禁斷の果實に手をのばしたことがあるが、出した手はいつも空つぽで戻つて來ることが分つたんだ。結婚を疑ふことは容易い、人妻を戀することも容易い、併し友を賣り、交際先の主人に不實を働き、友人の誼を破ることは出來ないことだ。ボリーさん、宅へ連れて歸つても差支へありません。別に恐がることはありませんよ。

ヂョーヂ夫人。望をかけるせきも無いですね？

ホッチキス。其んな親切でない物の云ひ樣をするから、すつかり無いことにする。

ヂョーヂ夫人。フム！　大概の男達の樣に貴郎も女の欲しがつてるものは一々知つてると思つてるんでせう。併し女が一番欲しがつてるものは結婚とは全く關係が無いんですよ。多分此處に

居るアンニーさんには、微か乍ら其れが分つてるでせう。

ソームズ。基督教徒の友情かね。

ヂョーヂ夫人。貴郎に云はせると、そんな風に云ふんですか。

ソームズ。お前さん、何んて云ふね。

コリンス。（塔の内に執事と共に現はれ。）さあ、ボリーさん、廣間は一杯だ。皆樣がお待兼ねだ。執事。紳士諸君、何卒道を開いて下さい、市長の奥方樣をお通し申して下さい。恐れ乍ら紳士諸君。憚り乍ら紳士淑女諸君、市長夫人をお通し申して下さい。

ヂョーヂ夫人、執事を先に立てゝホッチキスの腕を取つて出て行く。

ソームズ物靜かに、またもとの書き物にうつる。

——幕——

大正十五年七月十日印刷
大正十五年七月十五日發行

定價金壹圓參拾錢

譯者　大藤豐

東京市牛込區横寺町四三

發行者　後藤誠雄

東京牛込區早稻田鶴巻町四〇三

印刷者　谷口熊之助

結婚哲學

不許複製

發行所　東京市牛込區横寺町四十三　聚英閣
電話牛込四六二番
振替東京四七八六九番

（滿口印刷所印行）

探偵名作叢書

探偵小説壇の第一線に立つ人々の選み
ぬいた名篇傑作揃ひ

各冊約二百五十頁
定價一圓二十錢・送料十六錢

第一篇　死の接吻　小酒井不木著

第二篇　運命の塔　コオナン・ドイル作　延原謙譯

以下續刊

都會冒險物　逸馬著
暗い廊下　ステエシ・ガウモニヤ作　妹尾韶夫譯
廣告人形　横溝正史著
異國趣味探偵集　國枝史郎著
笑ふ骸骨　ゲヰン・エヴアンズ作　田中早苗譯
題未定　森下雨村著
同　甲賀三郎著
同　江戸川亂歩著

517
347

終